様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３９７６

研究課題名（和文）発達障害児の家族の相互交流支援プログラムの開発と効果評価

研究課題名（英文）Development and evaluation of the effectiveness of a program to support mutual interaction among families of children with developmental disorders.

研究代表者
平田　祐太朗（HIRATA, Yutaro）

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授

研究者番号：８０７７０８１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：これまで発達障害児者の家族の相互交流を支援するプログラムを自治体と連携して開発し，4年間以上継続して行ってきた。その実践を質的・量的調査と分析方法を用いて検討してきた。研究成果は国際誌へ発表し，開発に至るまでの経緯を明示，さらにその効果の機序について質的な分析を用いて詳細を明らかにした。また実際のプログラムについて，心理的効果を複数の指標を用いてその効果を確認した。得られた研究成果は国際学会，国際誌にて発表を行った。
これまでの研究を通して自治体のニーズに応じて利用可能な発達障害児者の家族の相互交流を支援するためのエビデンスに基づいたプログラムの雛形を作ることができたと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究成果の学術的意義として，これまで十分に検討されてきていない発達障害児者の家族同士の交流への支援の実践を体系化・理論化を行うことができた。特にプログラム開発とその効果評価を併せて検討を行うことで単純な効果に関するエビデンスのみならず，その機序を示すことができ，研究手法自体が相互交流支援を検討するための研究の枠組みとして提示できたと考えている。
　また，社会的意義として，発達障害者支援法において求められている当事者家族が支え合うことを支援するための具体的なプログラムを示すことができ，今後の発達障害児者の家族支援に対して1つの選択肢を提案することができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：We have developed a program in cooperation with the local government to support mutual interaction among families of children with developmental disabilities, and have continued to implement the program for more than four years. The practice has been examined using qualitative and quantitative research and analytical methods. The research results were published in an international journal, and the process leading to the development of the program was clearly explained. We also confirmed the psychological effects of the actual program using multiple indices. The research results were presented at international conferences and in international journals.
We believe that through our research to date, we have been able to create a model for an evidence-based program to support the interaction of families of children with developmental disabilities that can be used according to the needs of local governments.

研究分野：臨床心理学

キーワード：発達障害　相互交流支援　プログラム評価　家族支援

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究開始当時より，発達障害のある児童だけではなく，家族への支援の重要性が指摘されており，特に地域での当事者家族同士の支え合いは，孤立感の緩和，安心感の獲得，具体的情報の獲得など専門家による支援では得られない肯定的な効果が報告されている。一方で，その実践や研究の体系化・理論化は十分ではない。

以上を踏まえ，今回の研究では家族同士が支え合うための活動を支援するプログラムの開発と効果検討を行うことを目的とする。特に家族相互扶助システムの中心である親の会やペアレントメンター事業等と相互補完的に機能するプログラムの開発により，これまで対象とすることが困難であった家族へアプローチする際の方法の１つとなると考えられる。

２．研究の目的

本研究の目的は，地域における発達障害のある児童をもつ親同士の交流・支え合いの機会創出と促進を目的としたプログラムを開発し，効果の評価を行うことであった。具体的には以下の３点であった。

（1）親同士の相互交流に関する実態・ニーズ調査
（2）親同士の相互交流の機会創出と促進を目的としたプログラムの開発
（3）開発したプログラムの効果に関する探索的・実証的検討

なお，本研究において開発を目指すプログラムは，初期支援としてのアウトリーチ機能，その後の支援へのつなぎ機能を重視しており，従来の家族支援である親の会やペアレントメンターと相互補完的に機能することを目指した。

３．研究の方法

本研究は（1）家族同士の相互交流に関する実態ならびにニーズ調査，（2）プログラムの立案，実施，修正，（3）効果指標に関する探索的検討，（4）効果の実証的検討の４つを行うことであった。具体的な研究計画は以下の通りであった。

（1）家族同士の相互交流に関する実態ならびにニーズ調査:研究の最初の取り組みとして，発達障害児童の家族 150　世帯程度を対象に，地域における相互交流の実態とプログラムに対するニーズに関する質問紙調査の実施を行うこと。
（2）プログラムの立案，実施，修正:発達障害のある児童をもつ保護者を対象としたプログラムについて計画，実施を行い，そのプログラムの妥当性や有用性についてスタッフや研究者間で協議を行い，プログラム自体の修正を行うこと。
（3）プログラムの効果の指標についての探索的検討:参加者を対象に，プログラムに関する効果について質問紙調査を実施する，得られたデータを質的研究の方法を用いてカテゴリー分析を行い，プログラムの効果について実証的検討を行うために必要なアウトカム指標の同定を行うこと。
（4）プログラムの効果の実証的検討:（3）で作成されたアウトカム指標と，海外の先行研究においてペアレントメンターによるサポートの効果があるとされているエンパワメント，孤立感の低減，情緒的健康，自己肯定感と自信，スキルの向上の指標について質問紙調査を行う。特に有用性や満足度を併せて評価することを予定していた。

４．研究成果

これまで発達障害児者の家族の相互交流を支援するプログラムを自治体と連携して開発し，4年間以上継続して行ってきた。その実践を質的・量的調査と分析方法を用いて検討してきた。研究成果は国際誌へ発表し，開発に至るまでの経緯を明示，さらにその効果の機序について質的な分析を用いて詳細を明らかにした。また実際のプログラムについて，心理的効果を複数の指標を用いてその効果を確認した。得られた研究成果は国際学会，国際誌にて発表を行った。特に以下について具体的な研究成果を述べる。

（1）家族同士の相互交流に関する実態ならびにニーズ調査:プログラム実践の経年の申し込み者の推移やその実施後アンケートの分析を通して，ニーズの量的，質的調査を行った。
（2）プログラムの立案，実施，修正:発達障害のある児童をもつ保護者を対象としたプログラムについて計画，実施を行い，そのプログラムの妥当性や有用性についてスタッフや研究者間で協議を行い，プログラム自体の修正を行った。

上記（1）～（2）について具体的な取組をプログラムのプロセス評価として，「Development and Evaluation of a Mutual Support Program for Parents of Children with Developmental Disorders in Japan. Advances in Public Health, Community and Tropical Medicine156」と

して報告した。

（3）プログラムの効果の指標についての探索的検討:参加者を対象に，プログラムに関する効果について質問紙調査を実施する，得られたデータを質的研究の方法を用いてカテゴリー分析を行い，プログラムの効果について実証的検討を行うために必要なアウトカム指標の同定を行った。またアウトカム指標の同定については実践を通じてより適切なものを関係者間で適宜協議を行った。

（4）プログラムの効果の実証的検討:3)で筆者が作成したプログラム後のアウトカム指標と，POMS2 などの孤立感の低減，情緒的健康などの心理測定尺度を用いて，プログラムの介入研究を実施した。

上記（3）～（4）の取組について，「Section 5: Clinical Psychology, Capter20 The Effectiveness of a Mutual Exchange Support Program for Parents of Children with Development Disorders」にて発表を行った。

以上，4 つの取組を通じて当初の目的を概ね計画通りに達成することができたと考えている。本研究成果の学術的意義として，これまで十分に検討されてきていない発達障害児者の家族同士の交流への支援の実践を体系化・理論化を行うことができた。特にプログラム開発とその効果評価を併せて検討を行うことで単純な効果に関するエビデンスのみならず，その機序を示すことができ，研究手法自体が相互交流支援を検討するための研究の枠組みとして提示できたと考えている。
また，社会的意義として，発達障害者支援法において求められている当事者家族が支え合うことを支援するための具体的なプログラムを示すことができ，今後の発達障害児者の家族支援に対して１つの選択肢を提案することができたと考えている。
なお，現在本研究で得られた知見を土台として，さらに発展させていく予定である。具体的には，より対象を就学前の児童をもつ家族に焦点を絞り，さらに昨今必要性が強く訴えられている教育と福祉の連携による家族への支援のあり方について，研究課題/領域番号：23K12661「福祉と教育の連携による発達障害児童家族の相互交流支援プログラムの開発と効果検討」というテーマでさらに実践研究を展開していく予定としている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Yutaro Hirata, Eiji Ozawa	４．巻 9
２．論文標題 Characteristics of students who require elementary school counselors’ support owing to developmental disorders	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Heliyon	６．最初と最後の頁 e13791
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.heliyon.2023.e13791	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Yutaro HIRATA, Yutaka HARAMAKI, Yasuyo TAKANO, Kazuhiko NISHIYORI, Rie OTSUKA, Sae NAKAMURA	４．巻 156
２．論文標題 Development and Evaluation of a Mutual Support Program for Parents of Children with Developmental Disorders in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Advances in Public Health, Community and Tropical Medicine	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.37722/APHCTM.2022301	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 下田 芳幸，平田 祐太朗，吉村 隆之	４．巻 7
２．論文標題 公立中学校におけるスクールカウンセラーの配置時間および研修に関する現状分析	５．発行年 2023年
３．雑誌名 佐賀大学教育学部研究論文集	６．最初と最後の頁 149-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34551/00023405	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 飯田昌子，上村佳代，平田祐太朗	４．巻 90
２．論文標題 臨床心理学における質的研究の特徴と展望	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人文科学論集	６．最初と最後の頁 13－24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 下田芳幸，吉村隆之，平田祐太朗	４．巻 23
２．論文標題 自殺事案の重大事態調査結果におけるいじめの影響に関する語句の特徴	５．発行年 2023年
３．雑誌名 臨床心理学	６．最初と最後の頁 221－225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平田祐太朗	４．巻 Ⅶ
２．論文標題 The Effectiveness of a Mutual Exchange Support Program for Parents of Children with Development Disorders	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Psychology Applications & Developments	６．最初と最後の頁 233－244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 平田　祐太朗，飯田　昌子	４．巻 88
２．論文標題 ソーシャルネットワーキングサービスにおける対人トラブルの予防を目指した心理教育プログラムの開発	５．発行年 2021年
３．雑誌名 人文科学論集	６．最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田昌子，平田祐太朗	４．巻 88
２．論文標題 心理教育実践を通した心理学の学び	５．発行年 2021年
３．雑誌名 人文科学論集	６．最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Yutaro Hirata, Eiji OZAWA
２．発表標題 An Examination of Parents’ Perceptions of Trustworthiness of Teachers for Children With Suspected Developmental Disorders
３．学会等名 17th European Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 平田祐太朗，吉村隆之，下田芳幸，窪田由紀
２．発表標題 いじめ重大事態調査に関する研修プログラムの開発と効果検討（2）
３．学会等名 第2回日本公認心理師学術集会　山口大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉村隆之，平田祐太朗，下田芳幸，窪田由紀
２．発表標題 いじめ重大事態調査に関する研修プログラムの開発と効果検討（1）
３．学会等名 第2回日本公認心理師学術集会　山口大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Yutaro Hirata, Yutaka Haramaki, Yasuyo Takano
２．発表標題 A Study of the Effectiveness of a Mutual Exchange Support Program for Parents of Children with Development Disorders
３．学会等名 International psychological Application Conference and Trends 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 平田祐太朗，服巻豊，髙野恵代，西依一彦，大塚理絵，中村咲恵
２．発表標題 発達障害児者をもつ保護者同士の相互交流支援プログラムの開発と評価
３．学会等名 日本コミュニティ心理学会　第22回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yutaro HIRATA, Eiji OZAWA, Rumi FUKUDOME
２．発表標題 A Study on the Support of Elementary School Counselors for Children with Neurodevelopmental Disorders
３．学会等名 16th European Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 平田祐太朗（分担執筆），宮崎圭子，杉山雅宏，本田真大，大竹直子，田中志帆，山口麻美，田副真美，泉水紀彦，榎本拓哉，渡辺友香，三浦文子，相樂直子，会沢信彦（編著）	４．発行年 2021年
２．出版社 北樹出版	５．総ページ数 7
３．書名 教師・保育者のためのカウンセリングの理論と方法	

１．著者名 下田芳幸・吉村隆之・平田祐太朗	４．発行年 2021年
２．出版社 金剛出版	５．総ページ数 6
３．書名 臨床心理学21（5）自殺学入門-知っておきたい自殺対策の現状と課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究者詳細-平田　祐太朗 https://ris.kuas.kagoshima-u.ac.jp/html/100006346_ja.html#item_chosho_2

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関